

基本施策 A 2 まちなみ、自然を活かし、まちの質を高めます

主管課：景観推進室

個別施策

A2-1 地域の景観や自然など個性を活かしたまちづくりを推進します

A2-2 まちの回遊性を高め、歩いて楽しいまちなかをつくります

ア 施策の目的

市域全体が、まちなみ、自然等の地域の個性を活かし、魅力的になっている。

イ 基本施策の評価

B b 目標をほぼ達成しており、目的達成に向けて概ね順調に進んでいる

ウ 成果指標（「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標）

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R1	R2
景観重要建造物・景観重要樹木の数	17 件 (27 年度)	↑ 目標値	20	23	26	29	33
		実績値	18	19	21		
		達成率	90.0%	82.6%	80.8%		
日頃、「まちづくり」等の活動や運動に参加している市民の割合	39.7% (26 年度)	↑ 目標値	43.1	44.8	46.5	48.2	50.0
		実績値	30.3	31.4	30.7		
		達成率	70.3%	70.1%	66.0%		
【補助代替指標】 長崎の街並みや景観に誇りを感じる市民の割合 【A2-1 から再掲】	83.1% (26 年度)	↑ 目標値	84.6	85.4	86.1	86.9	87.6
		実績値	83.6	82.3	87.0		
		達成率	98.8%	96.4%	101.0%		
【補助代替指標】 「自然やまちの景観」に関する観光客の満足度【A2-1 から再掲】	83.8% (25 年度)	↑ 目標値	86.5	87.3	88.2	89.1	90.0
		実績値	96.6	84.8	96.9		
		達成率	111.6%	97.1%	109.9%		
【補助代替指標】 まちぶらプロジェクト認定件数【A2-2 から再掲】	0 件 (25 年度)	↑ 目標値	40	50	60	70	80
		実績値	40	51	62		
		達成率	100.0%	102.0%	103.3%		

※施策の成果を補完するため、補助代替指標として、個別施策 A2-1 及び A2-2 の成果指標を再掲した。

エ 評価結果の妥当性

本部会での議論を踏まえて考えると、評価結果については妥当であると判断する。

オ 審議会における政策評価に対する意見
なし

カ 審議会における施策推進に向けた提案

- 街路灯を設置することはよいが、周囲の草が生い茂っている場合は、灯りがともっていない昼間の時間帯に訪れる観光客が見たときに景観としてバランスがよくない。草木の伐採なども行い、全体的なバランスを見て、景観を活かしていく取組みが必要である。
- 景観づくりは、市民との協働が欠かせないと思う。市民力、協働の取組のモデルケースとなるように積極的に取り組んでいただきたい。
- 成果指標について、地域イベント等への参加者数を成果指標として設定しているが、そのイベントによる経済効果や交流人口の拡大がわかる他の指標を設定する必要があるのではないか。
- 高島については、様々な観光資源があることから、それらを活かした施策を行政が積極的に取り組むべきではないか。
- まちなかを今後どのように活性化させていくのかということは非常に重要なことで、大事な時期となっている。今後の方向性について、どのように人口が集中する地域が移っていくのかなどを念頭に置き、十分に検討していただきたい。
- 高島の活性化のため、若い人がSNS等での発信などに非常に尽力されているが、行政としてなにか支援ができないのか検討してほしい。
- 個別施策A2-2の成果指標である「まちなか1日当たりの歩行者通行量」に関しては、曜日や天気、クルーズ船の入港などで変動することが考えられることから、商工会議所が実施している調査等も参考にしっかり分析する必要がある。
- 駅から出島ワープを通り、水辺の森へのルートは、港や稲佐山、女神大橋が見渡せるなど歩くルートとして非常に素晴らしい。長崎にとって、「港」や「終着駅」は財産であることから、まちづくりの軸として検討してほしい。
- まちなか軸について、現在のエリアの考えとは別に、魅力的な施設が数多くあり、回遊性が高まることが期待できるため、山を越えてあえてぐねぐねと1周回するようなコースを検討してはどうか。

キ 次期総合計画の策定に向けた意見

- まちなかエリアのくくりについて、丸山地区のエリアはまだ手が付けられていないエリアでもあり、次期総合計画に向けて再検討していただきたい。